

原初いけばな行動訓

- 一、篤く三宝を敬い、己が力を誇らず、神仏の御心に身を委ねて花をいけ奉るべし。
- 二、花の命を重しとし、徒に摘み取り、徒に用いることを厳しく慎むべし。
- 三、守なくして破も離も無きことを忘るべからず。何よりもまず形式を尊び、正しき型に倚るべし。
- 四、神仏に向かうはまず畏れより始まる。道理を外れたる所作は、必ず災を招くと知るべし。
- 五、花の道は即ち人の道なり。修行を積み、世のため人のために尽くすを本義とすべし。
- 六、人を妬まず、怨まず、偽りを語らず。日々陰徳を積むことを怠るべからず。
- 七、花は心を映す鏡なり。己が心の光を磨き続け、神仏の御心に仕へ奉るべし。
- 八、花をいけるは己の娯楽にあらず。切実なる願いを神仏に届け奉るためにいけるものと知るべし。
- 九、良き器・良き花にまさりて、清き心こそ最も尊き供物なり。
- 十、理を問い過ぎず、ただ篤き信心を持つて歩むべし。